

クサヨシ

Phalaris arundinacea

イネ科



クサヨシ

名前の由来

ヨシに比べると小型で軟らかい草質であることから名付けられた。ヨシはアシともよばれ、「稗(かん)：ワラの意味」から変化したものといわれる。アシは「悪し(あし)」にも通じるのでこれを避けて、「善し」と同音の「ヨシ」を用いるようになったという。漢字名：草葦

形態的特徴

高さ0.7~1.8mで直立し、よく群生する。葉は細長く幅0.8~1.5cmで先はとがり、途中で下に垂れる。葉が茎と接する部分で、葉舌という透明な膜が立ち上がり、茎を取り囲む。

花は茎上部から多数出る柄上について穂のようになって立ち上がり(円錐花序は狭く、直立する)、下に垂れることはない。花は淡緑色でやくが淡紅色が目立つ。

類似種と見分け方

ヨシ、ツルヨシ。

ヨシの花序は長く、全体でススキのような赤褐色の穂になって垂れ下がる。また葉舌は小さく目立たない。ツルヨシ

は地表を長く這い、節々から根を伸ばして地表に固定させ、その節上に毛を密生させる。



クサヨシ。穂は立ち上がる



クサヨシの花。黄褐色のやくと、ガラス細工のような透明な雌しべが見える



ヨシ。穂が垂れ下がる



ツルヨシ。ツル(ほふく枝)が地上を這う

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

日当たりがよく、少し湿った草地、湿原などに群生する。

分布：国外分布は、熱帯以外の北半球。タイプ産地はヨーロッパ。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりがよく、少し湿った草地や湿原、河畔林などでよく見られる。群生する。



クサヨシ。巨大な群落もよく見られる

生活史

開花時期：6～7月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

水辺にクサヨシ等の植物群落が生育する場所では、水面に影ができたり、植物体が水中に倒れこんだり流されたりすることで、水中環境が複雑になり、魚や水生昆虫等、様々な生き物の生育場所になっている。

クサヨシは、ウラジャノメ、カラフトタカネキマダラセセリ、コキマダラセセリ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメの幼虫時の食草となる



左はカラフトタカネキマダラセセリ、右はヒメウラナミジャノメ。幼虫時クサヨシを食草とする (左写真撮影-平林照雄)

興味深い話

■クサヨシの花穂は、最初は円柱形で、花のつく柄が茎に沿って上方にのびているが、開花時期には柄がやや水平方向に倒れて散開し、果実が稔ると再び円柱状に戻る。

■河川敷など増水時に真っ先になぎ倒されてしまうような氾濫原に生育するが、倒れてもすぐに茎の節から新しい芽を再生し、結果的に群落を拡大させてしまう。

■北海道に生育しているクサヨシは牧草（リードカナリーグラス）起源だという説があり、文献によっては外来種とされている。



クサヨシ



クサヨシの穂（花）

参考文献

「増補 日本イネ科植物図譜」長田武正 平凡社 1993

「北海道植物図譜」滝田謙謙 自費出版 2001

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「溪流魚の生育場所と河畔の植栽」光珠内季報108巻 10～14ページ 長坂有 1997

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ